

京都大学言語学研究

第34号

研究論文

- チャック文字によるチャック語表記上の課題 藤原 敬介 1
- 奇妙な複数形と文法的性としての名詞クラスについて
 —スワヒリ語の二つの地域変種における事例— 古本 真 25
- ベトナム語における様態・性質の指示詞
 —現場指示・非現場指示をめぐって— NGUYEN Thi Ha Thuy 41
- 滋賀県湖北方言の動詞に付く助詞と接辞のアクセントについて 脇坂 美和子 69

研究ノート

- カム地域のアムドチベット語・道孚県色卡 [gSerkha] 方言の音声記述
 鈴木 博之 89

書評

- 簡月真 (著)『台湾に渡った日本語の現在—リンガフランカとしての姿—』
 東京：明治書院、2011、162pp. 落合 いずみ 109

2015

京都大学
 大学院文学研究科
 言語学研究室

Vol. XXXIV

2015

KYOTO
UNIVERSITY
LINGUISTIC
RESEARCH

published by

DEPARTMENT of LINGUISTICS, GRADUATE SCHOOL of LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto University Linguistic Research Vol. 34

Edited by	TATEMACHI Kengo (Editor-in-chief)		
	ŌTAKE Masami	YAMAMOTO Kyōsuke	WAKIZAKA Miwako (Assistant Editors)
	ONISHI Teigo	OCHIAI Izumi	CATT Adam NGUYEN Thi Ha Thuy
	SADANOBU Toshiyuki	SATO Akihiro	SHIRAI Satoko CELIK Kenan
	TAKUBO Yukinori	TIDA Syuntarō	HAYASHI Norihiko FURUMOTO Makoto
	MIYAGAWA Sō	YOSHIDA Kazuhiko	YOSHIDA Yutaka RIESER Lukas
Published by	Department of Linguistics Graduate School of Letters, Kyoto University Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501 Japan		
Printed by	Nakanishi printing Co.Ltd. 146 Nishioji-cho, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8048 Japan		

『京都大学言語学研究』 第 34 号

目次

研究論文

- チャック文字によるチャック語表記上の課題 藤原敬介 …………… 1
- 奇妙な屈折形式と文法的性としての名詞クラスについて
—スワヒリ語の二つの地域変種における事例— 古本真 …………… 25
- ベトナム語における様態・性質の指示詞 —現場指示・非現場指示をめぐって—
NGUYEN Thi Ha Thuy …………… 41
- 滋賀県湖北方言の動詞に付く助詞と接辞のアクセントについて
脇坂美和子 …………… 69

研究ノート

- カム地域のアムドチベット語・道孚県色卡 [gSerkha] 方言の音声記述
鈴木博之 …………… 89

書評

- 簡月真著『台湾に渡った日本語の現在 —リンガフランカとしての姿—』2011、東京：明治
書院、pp162. 落合いずみ …………… 109
- 京都大学言語学懇話会 2015 年度発表要旨 …………… 118
- 『京都大学言語学研究』 第 35 号 原稿募集 …………… 125
- 執筆者紹介・編集後記 …………… 127

『京都大学言語学研究』第35号原稿募集

投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)にて公開される。
- 印刷原稿または電子記録媒体の原稿は返却しない。
- 同一筆頭著者は、書評一件と書評以外の種別一件の、最大二件まで投稿可能。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。
- 採否は編集委員会で決定し、二か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

投稿方法

- 投稿は郵送か電子メールにて受け取る。
- 郵送は印刷物か、電子記録媒体(CD-Rなど)で、電子メールはフォントの埋め込み処理をしたPDF形式で提出。
- 別途用紙もしくは電子メールに原稿データ(下記項目)を記載して提出すること：
 1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別
 5. ページ数(要旨は含めない) 6. キーワード 7. 所属機関
 8. 連絡先(郵便番号、住所、電話・FAX番号、e-mailアドレス)

執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。
- 種別
 - 研究論文 — 完成した研究論文
 - 研究ノート — 研究の初期段階をまとめたもの
 - 書評論文 — 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
 - 書評 — 他者の出版物を紹介・批評したもの
 - 言語資料 — 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
- 原稿の様式
 - サイズ A4版用紙
 - 枚数 論文30枚、研究ノート・書評論文20枚、書評10枚、言語資料30枚迄とする。
 - 書式 言語学研究室ホームページ(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>)上に掲載されたスタイルファイル、或いはワードテンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。

■ 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本語で書かれた、A4 版要旨一頁の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第一著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数+頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii+179pp.

Yoshida, Kazuhiko *The Hittite Mediopassive Endings in -ri*. [Studies in Indo-European Language and Culture. vol.5], Berlin: Walter de Gruyter, 1990: xi+218pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を二通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第1著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数。

【論集などに所収の論文】

第1著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数.出版地：出版社.

【単行本】

第1著者名・他の著者名（発行年）『書名』版、シリーズのタイトルと巻号. 出版地：出版社

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類,大学名.

曾布川寛・吉田豊編 (2011)『ソグド人の美術と言語』京都：臨川書店.

田窪行則 (2005)「中国語の否定: 否定のスコープと焦点」『中国語学』252: 61-71.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’, In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.) *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen: Hempen. 39–48.

Tida, Syuntarō (2006) A grammar of the Dom Language. Doctoral dissertation, Kyoto University.

編集委員会連絡先

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX：(075)753-2827 電子メール：kult.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。

執筆者紹介

藤原敬介	神戸市外国語大学
古本真	京都大学大学院 / 日本学術振興会
NGUYEN Thi Ha Thuy	京都大学大学院
脇坂美和子	京都大学大学院
鈴木博之	Universitetet i Oslo / 国立民族学博物館
落合いずみ	京都大学大学院

編集後記

『京都大学言語学研究』(第34号)の発行に際し、多くの方々からのご協力賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。本誌は博士後期課程の学生が中心となって運営しておりますが、博士後期課程に属する学生が近年少なくなっており、今後体制の見直しが必要となると予想されます。より良い『京都大学言語学研究』のため、皆様からご助言・ご協力いただければ幸いです。今後とも『京都大学言語学研究』を宜しく願います。

編集委員長

『京都大学言語学研究』 第 34 号

2015 年 12 月 31 日 発行

編集委員長	立町 健悟					
編集長補佐	大竹 昌巳	山本 恭裕	脇坂 美和子			
編集委員	大西 貞剛	落合 いずみ	キャット・アダム	グエン・ティ・ハ・トウイ		
	定延 利之	佐藤 昭裕	白井 聡子	セリック・ケナン		
	田窪 行則	千田 俊太郎	林 範彦	古本 真		
	宮川 創	吉田 和彦	吉田 豊	リーザ・ルーカス		(五十音順)

発行者 京都大学大学院文学研究科言語学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
電話: (075) 753-2827 http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-top_page/

印刷 中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146

Kyoto University Linguistic Research

Vol. 34

Articles

HUZIWARA Keisuke:

Cak script: problems and proposals 1

FURUMOTO Makoto:

Non-standard plural forms and noun class as grammatical gender in Swahili:

The case of Kiunguja and Kikae 25

NGUYEN Thi Ha Thuy:

Demonstratives of Manner and Quality in Vietnamese 41

WAKIZAKA Miwako:

The role of morphemes and particles in the accent patterns in Kohoku Dialect .. 69

Note

SUZUKI Hiroyuki:

Phonetic description of the gSerkha dialect, Amdo Tibetan spoken

in the Khams region 89

Book Review

OCHIAI Izumi:

Yuehchen Chien, *The present state of Japanese language that sailed over*

to Taiwan: As lingua franca, Tokyo: Meijishoin, 2011, 162 pp. 109



2015

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University